

北陸発! JICA海外協力隊の取組み紹介!

特別派遣前訓練

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、派遣前訓練及び派遣時期が延期となった2020年度1次隊合格者に対して、延期となった期間を利用して、特別派遣前訓練(地域実践研修)を実施しています。ここでは、北陸地域で2020年秋に実施した2つの特別派遣前訓練についてご紹介します。



公民館にて新たな地域公共交通について説明している様子



クロスベイ新湊の窓口業務の様子

2020年4月から派遣前訓練に参加予定であった伊東悠太さん(派遣国:ポリビア/職種:環境教育)、大橋洋一さん(派遣国:ネパール/職種:水産開発)、菅原洋一さん(派遣国:マーシャル/職種:経営管理)の3名が、富山県射水市において9月から約2か月半にわたって特別派遣前訓練を行いました。

訓練内容は、複合交流施設「クロスベイ新湊」の運営管理、外国に由来する居住者の支援、空き家対策等がありました。また、市が推進している地域公共交通「べいぐるん」の実証運行の推進を図るため、地域のお年寄りが集まる公民館などに出向き、市の職員とともに説明会を実施しました。地域の方々によりわかりやすく伝えるにはどうしたらよいのかを考える、そうしたことは海外での協力隊活動に通ずるものがあると感じました。

3名の皆さん、これからまだまだ本格的な訓練などが残っていますが、この経験を生かして頑張ってください! 富山から応援しています!!

射水市



3名の隊員候補者(クロスベイ新湊の前にて)

佛子園



2名の隊員候補者(Share金沢にて)

2020年8月から、JICA海外協力隊の隊員候補者の山下順さん(派遣国:ネパール/職種:防災・災害対策)と波佐谷圭代さん(派遣国:モロッコ/職種:日本語教育)の2名が、派遣前の訓練として社会福祉法人佛子園が運営するShare金沢(金沢市)で障害者児童の生活支援活動を行なっています。

2人は福祉関連の経験がなく障害者児童との接し方が分からない中で、施設の職員とコミュニケーションをとり、専門書を読みながら、失敗を恐れずに子供の気持ちを最優先して活動を行なっています。児童と生活する中で、言葉で伝えることが難しい子が、食事の時間にお辞儀や手を合わせる習慣を身につけたことに喜びを感じていました。

Share金沢の清水施設長は、候補者の2人が活動中に発する専門家目線ではない純粋な意見に耳を傾けることで、施設を訪れる地域の方や一般の人がつながるためのよりよい場作りができるようにしたいとおっしゃっていました。



入所児童と一緒に手洗いの練習



入所児童と触れ合う訓練候補者

活動報告

2018年度2次隊 福井県高浜町出身 **坪井 沙由理 さん**

派遣国: マラウイ / 職種: コンピュータ技術

私はマラウイ国立医科大学ICT部でWEBシステムの開発を現地の同僚と行なってきました。世界最貧国の一つであるこの国でも日本とほぼ同じPC環境で活動ができ、新型コロナウイルスによって一時帰国するまでに大きなシステムを2つ開発し導入することが出来ました。開発したシステムの一つは、国内外から参加される研究会イベント申込をオンライン化するシステムです。

会議は英語で実施するものの雑談はチェワ語を使用するのでコミュニケーションに苦労しましたが、WEBシステム開発ですべき内容は日本のWEBシステム開発と同じであると思ひ、活動を続けよう軌道に乗ったところで緊急帰国となってしまいました。

しかし日本からも、今までと変わりなくリモートで活動することができたので、後発開発途上国でもIT分野での格差がなくなっている事を肌で感じました。今後は国内外どんな環境でも対応できる技術力を更に磨き貢献していきたいです。



研究会オープニングセレモニーの様子



同僚とシステム開発をしている様子

2018年度2次隊 石川県野々市市出身 **小西 博子 さん**

派遣国: ガーナ / 職種: PCインストラクター

配属先のセント・ローズ高等学校には寄付などにより100台以上のPCがありましたが、保守管理の意識が低く半数以上が故障していました。他校の隊員の協力もあり赴任後9ヶ月で全て清掃、点検し稼働台数を増やすことが出来ました。同時に配属先にはマウスや電池等があれば使用可能なPCを増台出来ると説明していましたが予算を確保出来ずじまいでした。消耗品の入手方法を同僚と話し合う中、自分達で資金調達を考へるようになり、自分の提案したプラスチックのリサイクルで得た収益で消耗品購入というプロジェクトを立ち上げました。文化の違いからリサイクルボックス設置までの道程はとても大変でしたが、隊員が帰国しても継続して欲しかった為、同僚主導で進めてもらいました。

リサイクルボックス設置直後、新型コロナウイルスの影響により一時帰国しそのまま任期満了となってしまった為、この活動は最後まで出来ませんでした。しかし寄付に頼らず自分達で資金を集めようという意識を持ってもらえたこと、ごみは空き地で燃やすのが一般的という任地の環境で同僚にプロジェクトに賛同してもらい、学校の協力を得られただけでとてもよい活動が出来たと思います。



任地を離れる日に再度リサイクルプロジェクトの説明をしました



他校のPC隊員、同僚と一緒にPCの保守管理をしました

2018年度1次隊 富山県砺波市出身 **安念 幸恵 さん**

派遣国: ペルー / 職種: バドミントン

私は南半球にあるペルーのバドミントン連盟に、12~22歳の国代表選手のコーチアシスタントとして派遣されました。ペルーの首都は想像していたよりもはるかに近代的で、活動場所である体育施設も素晴らしい、国際大会が開催されるほど日本の状況に近いレベルでした。日々の練習では、彼らの身体能力の高さに驚かされましたが、身体能力が高いがゆえに動きや技術が効率的でないことに気づかされ、それを克服すればさらに世界で活躍できる選手になるであろうとダイヤの原石を見つけたようで、興奮させられました。

またペルー国代表コーチとして海外遠征等にも同行し、さらには世界で戦っている日本人選手とも交流し、様々な視点からボランティア活動の醍醐味を知ることができました。人との出会いに感謝し、今後も何らかの形で貢献していけたらと思っています。



南米大会でのコーチングの様子



在日ペルー大使館で東京パラリンピック候補選手との集合写真

伝え方講座

JICA北陸主催のスキルアップオンラインセミナー「伝え方講座」が11月14日(土)と21日(土)の2日間にわたり実施されました。このセミナーはJICA国際協力出前講座や社会還元への参加促進につなげ、「経験」や「想い」をより効果的に表現できるようになることを目的に開催され、現在一時帰国しているJICA海外協力隊の隊員やOV隊員7名が参加しました。講座では、JICA海外協力隊の活動や人生経験からテーマと一番伝えたいメッセージを決め、頭の中にある情報を視覚化しながら起承転結に整理する方法を学びました。その後、言葉遣い、話し方や情報量に注意しながら発表しました。

参加者からは、発表の準備段階では自分の体験談を整理し相手に伝えることの難しさを感じていたものの、講座や発表を通じて自身の発表の客観的な視点も得られ、有意義な講座になったとの声がありました。人前で発表するのが苦手な参加者も、講師や同じ参加者からの的確なコメントにより、今後の体験発表への自信につながったと話していました。



講座参加者の様子



伝え方講座 発表練習中の様子

隊員が活動終了に伴う表敬を実施しました!



福井県の表敬にて



石川県の表敬にて



富山県の表敬にて

北陸3県から出発したJICA海外協力隊員が、活動終了挨拶と報告のため各県の県庁に表敬訪問を行いました。

報告を行なった隊員からは、それぞれの活動写真を用いて、現地で苦労したこと、日本との文化の違い、そして協力隊経験の帰国後の活用などについて話をいただきました。

表敬訪問先と参加人数

- 福井県庁(3名) 10月16日
- 石川県庁(7名)と石川県教育委員会(1名) 10月20日
- 富山県庁(7名)と富山県教育委員会(2名) 10月28日